

広報誌で紹介した写真またはデータをご希望者に提供します。

●お申し込み●
秘書課広報広聴係 ☎ 23-3069 へ

夏至祭で北欧気分！

(6月20日)

太陽の恵みと大自然に感謝する「第21回夏至祭」が、当別・レクサンド都市交流協会の主催で開催。会場となったスウェーデン交流センター周辺には2,000人が集まり、コンサート

やフォークダンス、カフェテリアで楽しみました。

お祭りのピックアップイベントで全長約10mの支柱にリースを飾りつけた「マイストングの立ち上げ」には、地域の男性らがスウェーデン風の衣装を身にまとい「オー！」「ヘーイ！」の掛け声で力強く立ち上げました。

また、スウェーデンヒルズの子供らで創る「Friendミュージカルクラブ」が8月に公演を予定している歌と踊りを披露。かわいらしい姿に観客も和んでいました。



みなさんの善意で緑の町に

駅前大通りが華やかに

(6月1日)



4月23日から6月10日まで行われた「緑の募金運動」は、みなさんから約170万円の善意の募金をいただきました。緑の少年団（弁華別小学校・同中学校）や中小屋・西当別中学校生徒の街頭募金、職場・企業・窓口募金などが行われました。

集まったお金は、樺戸町にある「樺戸桜の杜」、青山にある「医療大学の森」などの緑化推進事業に役立てられます。



住民と企業で組織する当別駅前大通振興会（佐々木行雄会長）が、当別駅前大通りの植樹柵12カ所に、花の苗4,000本を植えました。この日集まった会員など約70人が、町内のフラワーマスターからの指導を受けながら、苗が蛇行しないように慎重にベコニア、ブルーサルビアなどを植えました。

可憐な花に道路沿いが華やぎ、行き交う車や歩行者を和ませています。

すでに柵には、ユリ・チューリップなどの球根が植え込まれていて、来シーズンも楽しませてくれそうです。

機敏な消防訓練を披露

(6月7日)



住民生活の安全を守るため、日ごろから訓練を重ねている消防団員が一堂に集まる、「当別消防訓練大会」が総合体育館駐車場で開かれました。

開会式後の訓練披露では、女性消防団員4人の「消防ポンプ操法」も行われ、慣れた手つきでホースを広げるなど訓練の成果を発揮しました。

最後に行われた一斉放水に、見学に訪れた保育所の子供たちもその水しぶきにおおはしゃぎでした。

当別消防署職員の小出謙二さんは、北海道代表として5月27日に千葉県で行われた「全国消防職員意見発表」に出場。

救急救命士でもある小出さんは、「救急の花 - 応急手当実施率の向上を目指して -」の題で聴衆に語りかけ、見事入賞を果たしました。



まちの森「つくし家」で町民交流を

(5月28日)

町内に住む精神に障がいのある人の活動の場を広げ、町民との交流を深めようと準備を進めていた「つくし共同作業所」の第2の活動拠点が、本通商店街の空き店舗にまちの森「つくし家」としてオープンしました。

この日は花卉農家から分けてもらったチューリップなどの花束のプレゼントが用意され、入り口には格安の花の苗が並べられて、道行く町民が足を止め買い求めていました。今後はメンバーのペースに合わせてイベントなどを行っていく予定。



自然観察指導員を養成

(6月18～20日)

道内外から60人が集まり「NACS-J自然観察指導員講習会」が道民の森で開催されました。講習会は自然保護活動普及と指導員養成のために全国各地で行われ、北海道自然保護協会が主催する道内開催は17回目となります。

3日間を日本自然保護協会講師の指導で森の中を探索し、自然観察や自然保護教育の野外実技指導と講義が行われ、指導員として必要な知識を習得しました。

受講修了者は、今後各地域で「自然観察指導員」として地域の自然保護思想の普及に努めます。



初夏に舞うYOSAKOIソーラン

(6月9～13日)



札幌市で開催された「第13回YOSAKOIソーラン祭り」に4回目の出場となる「ふとみ元風会」は、石屋ファクトリーを始め6カ所で行った元気な踊りを披露しました。

今回、「四季」をテーマに、専門家に曲と振り付けを依頼。昨年12月から練習に励み、ステージに挑みました。5歳からのメンバー60人が息を合わせ、観客を魅了しました。